



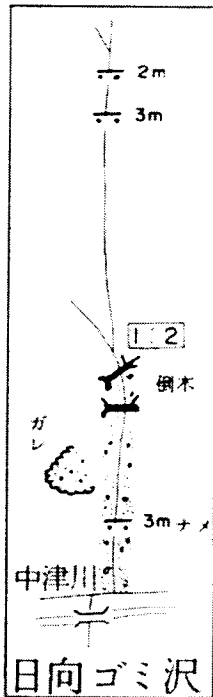
日蔭沢左俣左沢
細い流れの中、滝が続いた

日向ゴミ沢

一九八四年七月二日

尾根から五分も下ると、日向ゴミ沢に出る。源頭部は樹林帯であり、ヤブは少ない。

九時五五分、二俣を確認して先に進む。二〜三箇の小滝をクライミンググダウンし、一〇時二〇分、再び二俣。



これより中津川出合までは、平坦なゴーロ状となる。名前のごとく陽があたって明るい、全く平凡な川

原歩きのゴミ沢であった。

(記)

「タイム」 尾根(九:三〇) ↓ 中津川

出合(一〇:四〇)

焚き火

焚き火は、沢で泊まる時の一番の楽しみです。一日の遊行を終えた身体を焚き火で温めながら酒を呑み、友と語りう時そこには喜びがある。夜空をおおき星を見ながら焚き火の周りでこる寝をする。夏の沢登りでなくてはできないことです。また、ウォータークライミングや雨の日の遊行で冷えた身体を温めてくれる焚き火ほど有り難いものはありません。日帰りの沢登りでは味わえない沢の醍醐味の一つがここにあるのです。